

【高等学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)
A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

5 重点取組内容・成果指標					最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○生徒一人ひとりの個性や特性を尊重し、主体的な学びを促し、ほめて伸ばす授業の実践 ○指導と評価の一体化を図り、PDCAサイクルのもと生徒の学習改善はもとより教師の指導改善を図る	○授業相互参観週間を年間2回設定する(6月・11月)。 ○カリキュラムマネジメントに関する研修を年間1回以上設定する(10月)。	・生徒の主体的な学びを意識した授業を全教員が行う。また、参観週間等の機会を用いて、他の教員の授業を積極的に参観する。 ・各教科や「総合的な探究の時間」の単元指導計画、評価計画に関する研修を計画し、実施する。			・		教務部	
	◎自らの目標や進路実現に向けた基礎学力の定着・向上とICTの利活用	○多様な学校設定科目による幅広い進路選択への対応を行う。 ○一人一台端末を用いて学習に取り組む生徒の割合を 90%以上にする。 ○基礎力診断テストの学習到達ゾーン(GTZ)のD3層を各学年60%以下にする。	・自らの目標や進路実現にあった科目選択ができるように、各学年・担任等で面談を行う。 ・授業や自主学習でICTを活用し、個に応じた学習ができるように指導する。 ・生徒にD3層の意味を理解させ、基礎力診断テストを重要な指標とした基礎学力向上を図る。			・		学年主任 ICT 学習到達度等	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎「他者を思いやることができた」「豊かな心をはぐくむことができた」と回答した生徒を80%以上にする。 ○図書館利用者および図書貸出数を増加する(前年度比10%増)。	・学校行事や「総合的な探究の時間」において協働的な学びの場を多く設定する。 ・人権教育、情報モラルに関する授業を実施する。 ・図書館だよりを毎月発行し、図書館レイアウトを工夫する。			・		学校行事・総務、人権・ 同和教育、図書部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等について「組織的対応ができています」と回答した教員を90%以上にする。 ○「インターネット上の人権侵害」に着目し、教職員の理解を促進するための研修会を1回以上開催する。	・いじめの対応についての研修・会議を年間2回以上実施する。 ・人権・同和教育担当者と連携し、「インターネット上の人権侵害」に関する講話等を実施する。			・		生徒指導部 人権・同和教育	
	○あいさつ運動の推進	○あいさつを通して、互いを尊重し、良い関係性を確立できるよう、あいさつ運動を継続する。 ○「あいさつを積極的にやっている」と感じる生徒の数を60%以上にする。	・登下校時や集会時、授業開始・終了時のあいさつを徹底する。 ・生徒会役員によるあいさつ運動を週1回実施する。			・		生徒会	
●健康・体づくり	○「望ましい生活習慣の形成」	○規則正しい生活リズムを確立させ、朝食摂取率を75%以上にする。 ○「健康に良い食事をしている」生徒の割合を80%以上にする。 ○歯垢要治療者、歯肉要治療者を20%未満にする。 ○歯科受診率を30%以上にする。	・朝食アンケートを行い、生活習慣、食生活について振り返り、考えさせる。 ・個別に歯科受診指導を行う。 ・学校歯科医と連携し、ブラッシング指導を行う。			・		保健厚生部	
	○部活動の活性化	○部活動入部率45%以上にする。 ○部室や活動場所の整理整頓と施設への徹底に関する注意喚起を年4回以上行う。	・4月に体験入部1日、部活動見学日を1日設定し、新入生全員参加を促す。 ・部活動ごとに練習計画表を発行する。			・		生徒会	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年次休暇を年間14日以上取得する。	・定時退勤日の設定(月曜日)と掲示や口頭による啓発を行う。 ・学校行事・学校運営の精選や見直しによる業務効率化を図る。 ・夏季休業中に学校閉庁日(8月7日～15日)を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備する。 ・部活動休養日の設定と、部活動の活動方針に基づいた活動を徹底し、複数顧問のシフト制を推進する。			・		管理職(教頭)	
●特別支援教育の充実	●教職員の専門性の向上による教育相談・生徒支援体制の充実	○九州大学教員と連携し、生徒がより安心して高校生活を送ることを目指したプログラムを実施する。1年生全員を対象に計画する。プログラム実施時には校内研修として位置付け、教職員の参観率を80%以上にする。 ○外部講師を招聘し、特別支援教育や不登校生徒の支援に関する研修会を年2回以上実施し、教職員の専門性の向上を図る。	・九州大学教員指導の下、生徒同士の「支え合い」や「助け合い」を促進することを目的とした「ピア・サポート」プログラムを実施する。計6回のプログラムを1年生3クラスを対象に実施する。その際、教職員の参観を適宜呼びかける。 ・大学等より外部講師を招聘し、特別支援教育や不登校生徒の支援に関する研修会を半期に一度以上開催する。			・		教育相談、特別支援担 当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★学校の色・魅力発信の強化と広報活動の充実	★学校説明・学校PRの機会を年間30回以上実施する。 ★学校からの情報発信を月に4回以上行う。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上にする。	・SAGAハイスクールプロモーション事業、体験入学、中学校訪問、各種学校説明会等による広報活動を積極的に行う。 ・各分掌や学年に呼びかけて、学校から発信する情報を収集し、活用する。 ・全校集会や学校だより、校内の掲示板等を活用して、生徒及び教職員にも学校の魅力を発信する。			・		教務部 広報・地域連携	
○地域との関わり・地域貢献活動	○ボランティア活動 ○地域行事への参加等	○JR厳木駅や通学路の清掃活動を週1回実施する。 ○地域の方と一緒に活動した生徒の割合を60%以上にする。	・生徒会であいさつ運動と合わせて週1回実施する。 ・ボランティア部が随時厳木駅清掃を実施する。 ・地域やNPO法人等、外部との連携を図る。			・		生徒会 広報・地域連携	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり									
6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)									